

第2章

中間時点における重点プランの目標の達成状況

1. 「知」の目標の達成状況	9
2. 「徳」の目標の達成状況	11
3. 「体」の目標の達成状況	13

掲載したデータは、平成26年3月末時点での最新データです。また、全国学力・学習状況調査及び全国体力・運動能力、運動状況等調査結果については、東日本大震災の影響により全国的な調査が行われなかった平成23年度の結果は除いています。

1. 「知」の目標の達成状況



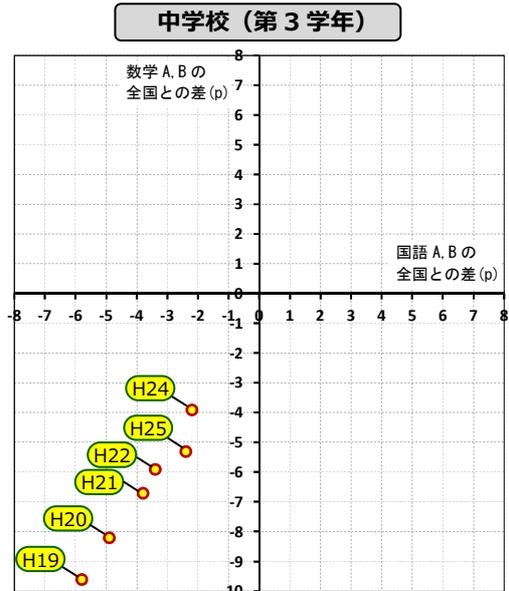
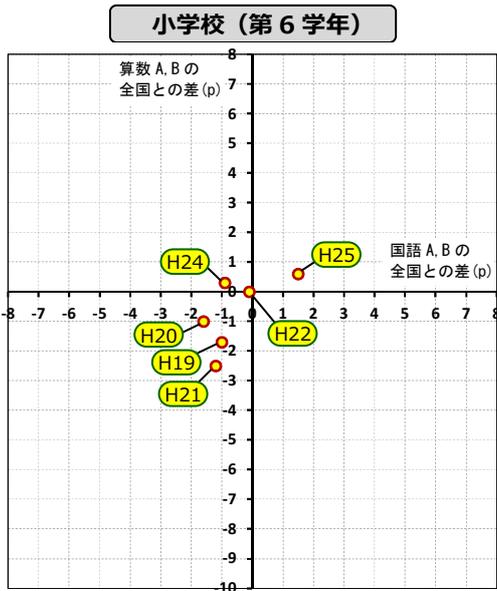
小学校の学力は全国上位に、中学校の学力は全国平均まで引き上げる

- 全国学力・学習状況調査において
 - ・小学校：全国平均を3ポイント以上上回る
 - ・中学校：全国平均まで引き上げる

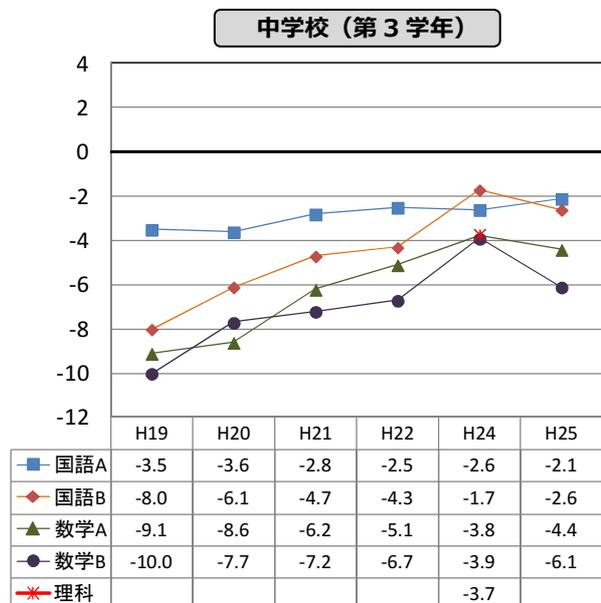
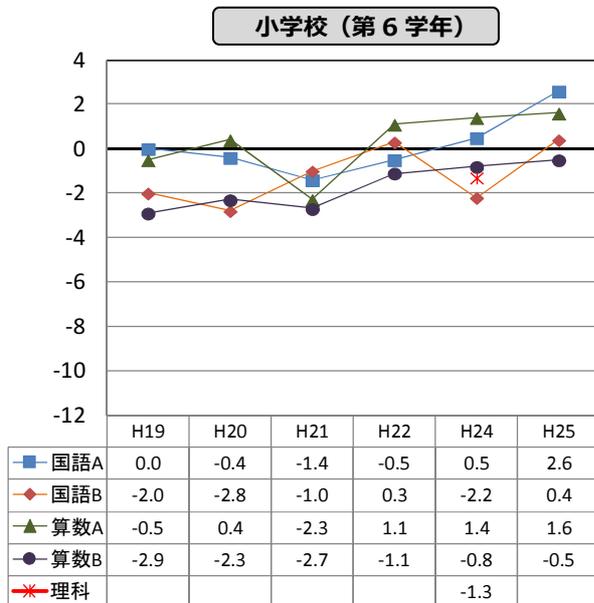
児童生徒の学力の状況

全国学力・学習状況調査結果（平成19年度～平成25年度）

■本県調査結果の全国平均正答率との差



■本県調査結果の全国平均正答率との差（教科、問題別）



※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響により全国調査は未実施

平成25年度全国学力・学習状況調査は、平成21年度以降4年ぶり、4回目の全国悉皆調査として実施されました。小学校は、すべての教科で改善傾向にあり、国語A・B問題、算数A問題で全国平均を上回っています。中学校は、前回の悉皆調査と比較すると改善していますが、すべての教科で全国平均に達しておらず、伸び悩んでいる状況にあります。

【参考データ】

■平成 25 年度高知県学力定着状況調査結果

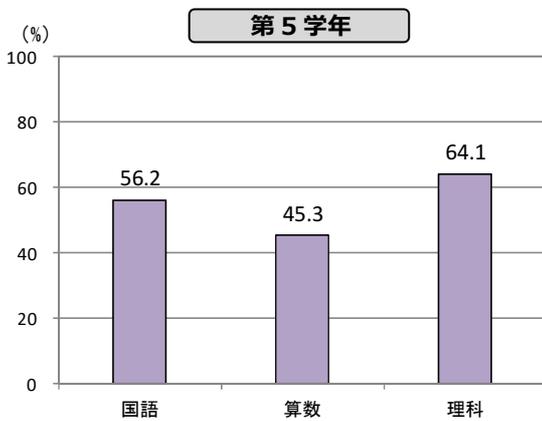
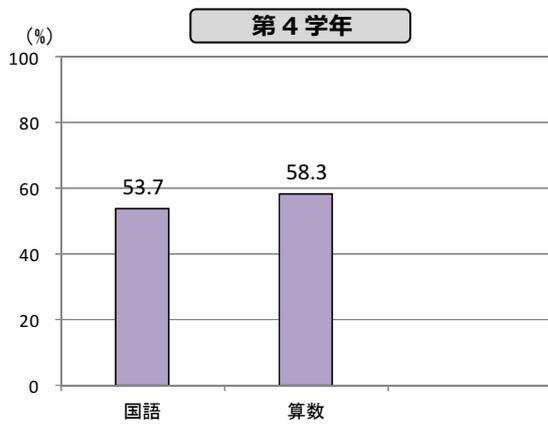
調査実施日：平成 26 年 1 月 9 日

対 象：小学校 第 4・5 学年（第 4 学年：国語、算数 第 5 学年：国語、算数、理科）
中学校 第 1・2 学年（国語、数学、理科、社会、外国語）

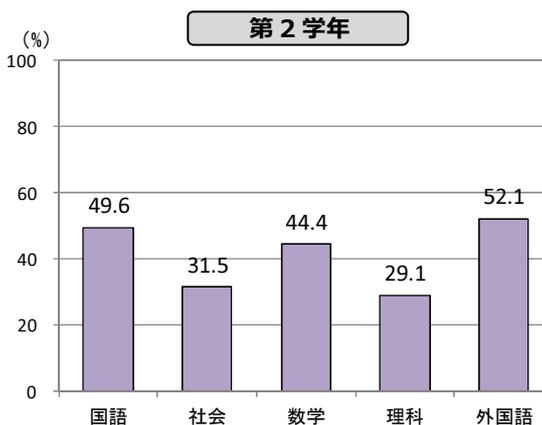
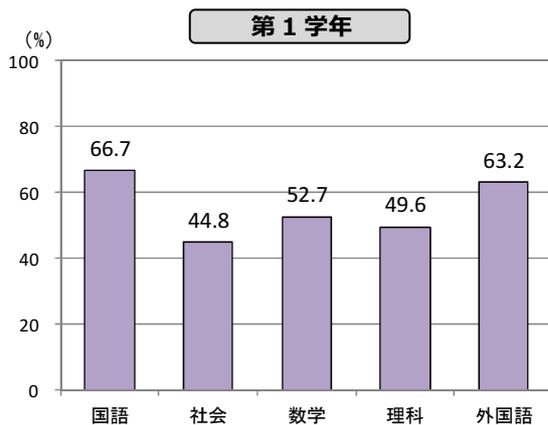
高知県学力定着状況調査とは

小学校中学年からみられる学力の二極化や中 1 ギャップによる学力低下など、本県の子どもたちの様々な学力課題の解決に向けて学習内容の確実な定着を図るために、子どもたちの学習の定着状況を把握するとともに、学習指導の充実や指導方法の改善に生かすことを目的として、平成 24 年度から県独自に実施している学力調査

◇小学校調査結果の県平均正答率（教科別）



◇中学校調査結果の県平均正答率（教科別）



平成 25 年度の調査結果から、複数の資料を関連付けて読み取ったり、根拠を明らかにして自分の考えを書いたりすることなどに課題が見られます。これらの課題解決に向けて、児童生徒の「ことばの力」の育成に重点を置き、単元テストや学習シートなども効果的に活用しながら各教科における指導方法の改善や質の高い授業づくりを、学校全体で組織的・計画的に進めていく必要があります。

2. 「徳」の目標の達成状況

目標

徳

児童生徒の自尊感情を育むとともに、社会性、規範意識を高める

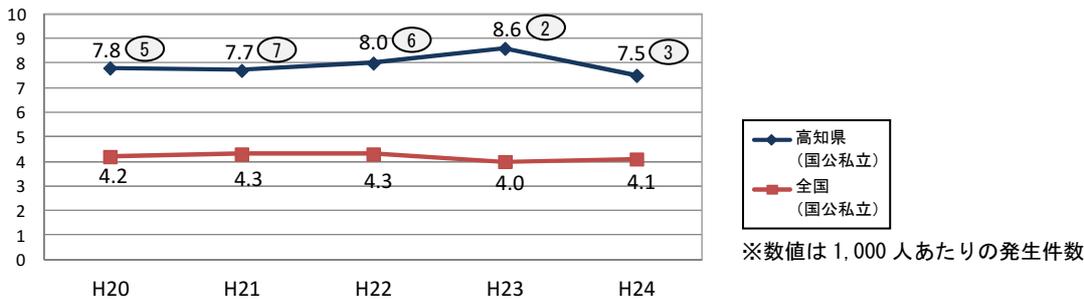
- 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査において、児童生徒の不登校、暴力行為、中途退学の状況を全国平均まで改善する
- 全国学力・学習状況調査の質問紙調査3項目において、平成22年度の本県調査結果を5ポイント以上上回る

生徒指導上の諸問題の状況

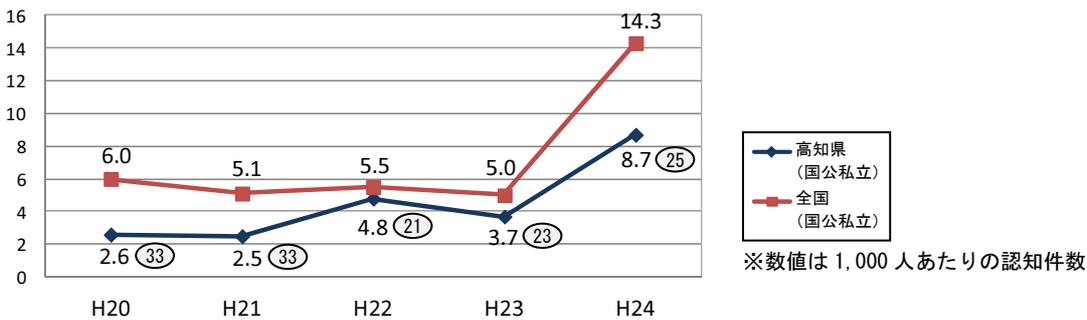
児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果（平成20年度～平成24年度）

※数値横の○数字は、全国で比較した場合のワースト順位

■ 暴力行為（小・中・高等学校）

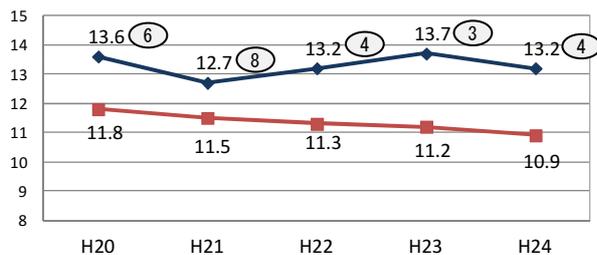


■ いじめ（小・中・高・特別支援学校）

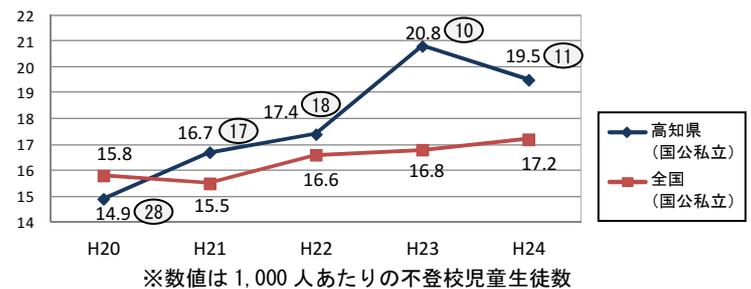


■ 不登校

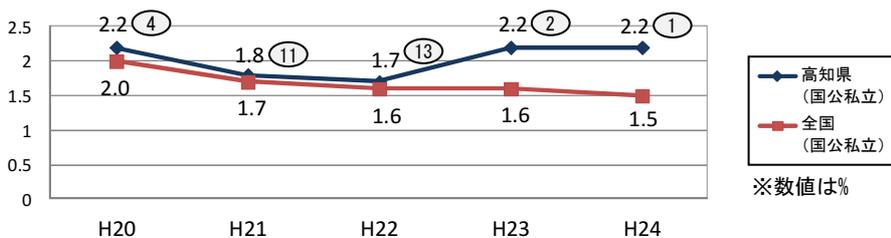
（小・中学校）



（高等学校）



■ 中途退学



本県の生徒指導上の諸問題について、平成23年度の調査結果では暴力行為の発生件数、不登校出現率、中途退学の割合が過去5年間で最も高くなっており、非常に厳しい状況にありました。

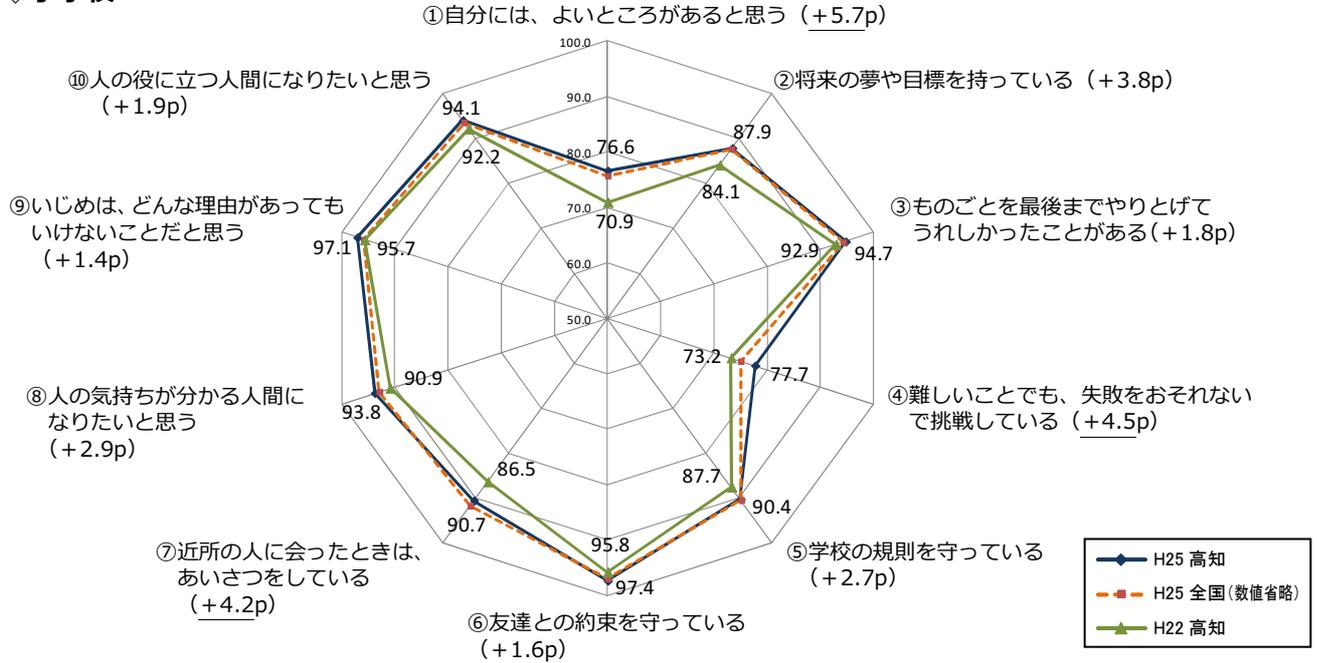
平成24年度の調査結果では、不登校出現率、暴力行為の発生件数はやや改善されたものの、中途退学率が全国ワースト1位となるなど、すべての項目で全国平均を大きく上回っており、依然、厳しい状況が続いています。

心の指標の状況

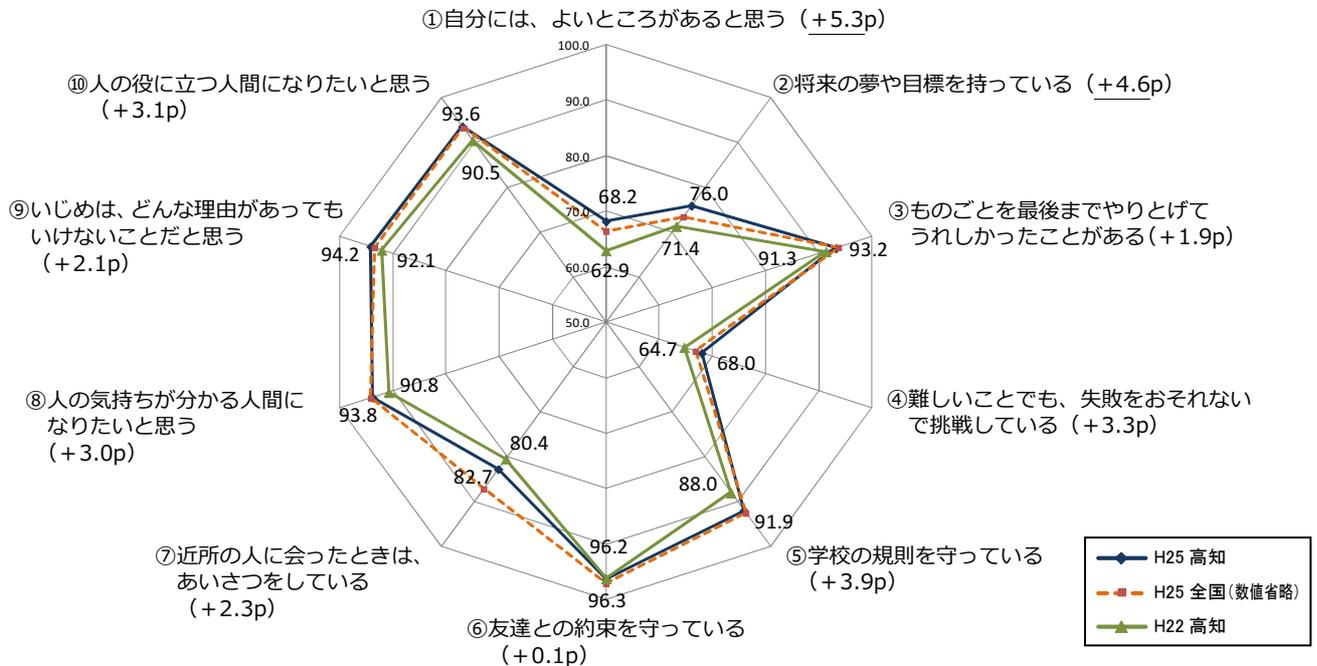
全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果抜粋(H22、H25 年度調査結果の比較)

※各質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合(%)
質問項目横の()内数値は、平成22年度の本県調査結果との差(H25高知-H22高知)

◇小学校



◇中学校



平成25年度調査結果について、本県の回答結果を全国と比較すると、中学校の⑦「近所の人に出会ったときは、あいさつをしている」を除いて、全国平均とほぼ同じか、やや上回る結果となっています。
また、平成22年度の本県調査結果と比較すると、小・中学校ともに、重点プランの目標としている①「自分には、よいところがある」、②「将来の夢や目標を持っている」、⑦「近所の人に出会ったときは、あいさつをしている」の3項目をはじめ、すべての項目で肯定的な回答の割合が増加しています。

3. 「体」の目標の達成状況

目標

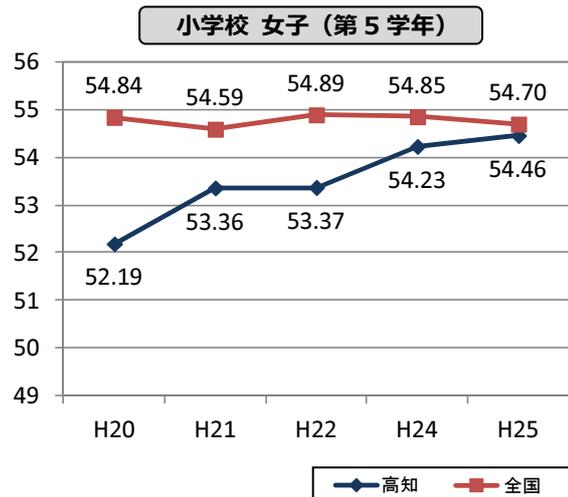
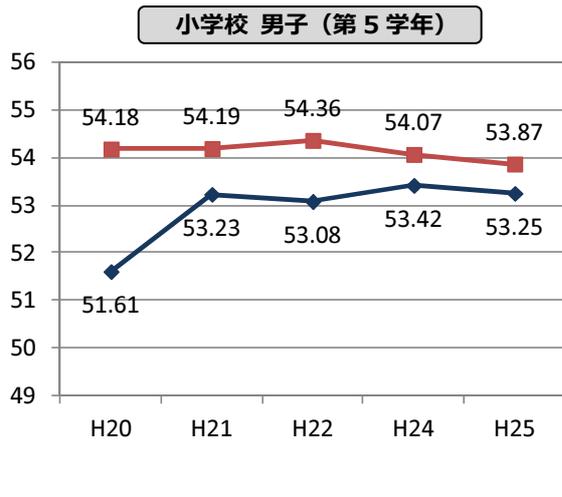


小・中学校の体力、運動能力を全国平均まで引き上げる

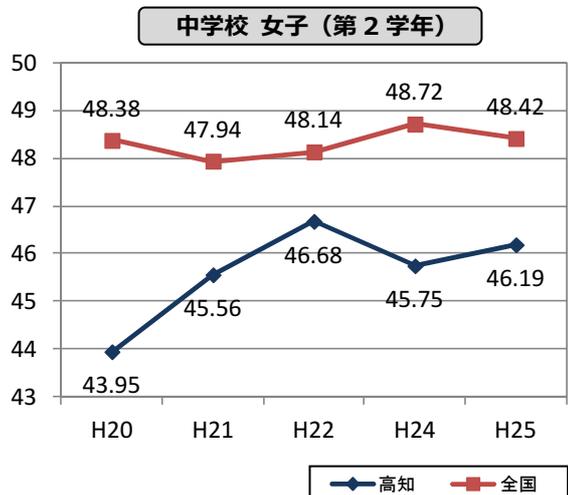
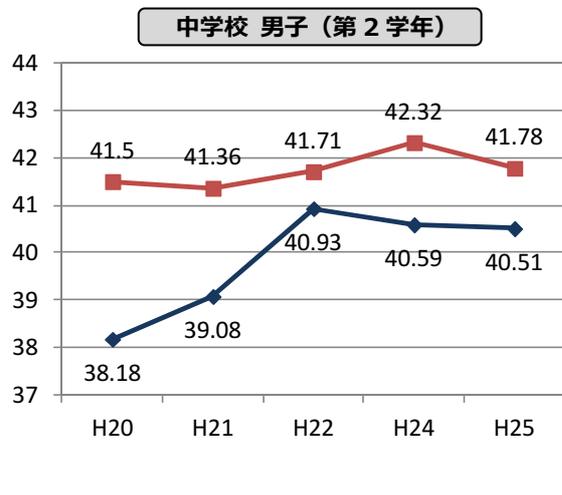
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において小・中学校ともに「体力合計点」を全国平均まで引き上げる

児童生徒の体力・運動能力の状況 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（平成20年度～平成25年度）

◇小学校



◇中学校



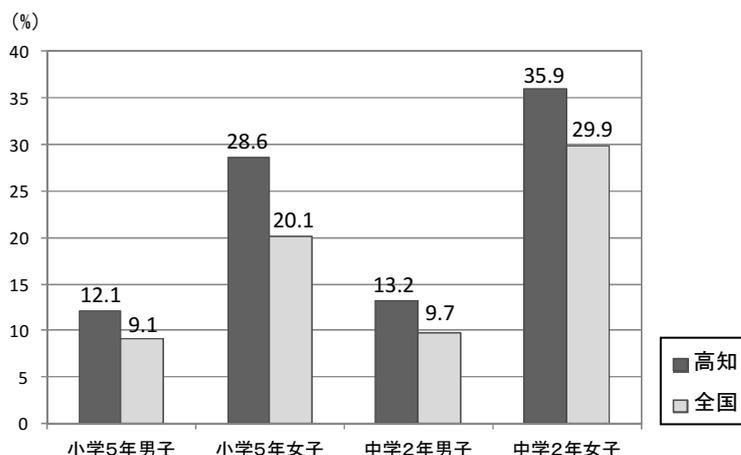
※数値は8種目の実技で体力や運動能力を得点化した「体力合計点」の平均値
 ※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響により全国調査は未実施

高知県の児童生徒の体力合計点は、全国調査が実施された平成20年度は、小学校男子・女子とも全国47位、中学校男子が45位、女子が46位と、全国最低水準にありましたが、その後は着実な上昇傾向を示しています。特に、小学校は、全国平均には届いていないものの、全国水準まで伸びてきている状況です。しかし、中学校は、平成20年度からは大幅に伸びているものの、全国平均との差は依然大きく、特に女子においてその差が大きくなっています。

【参考データ】

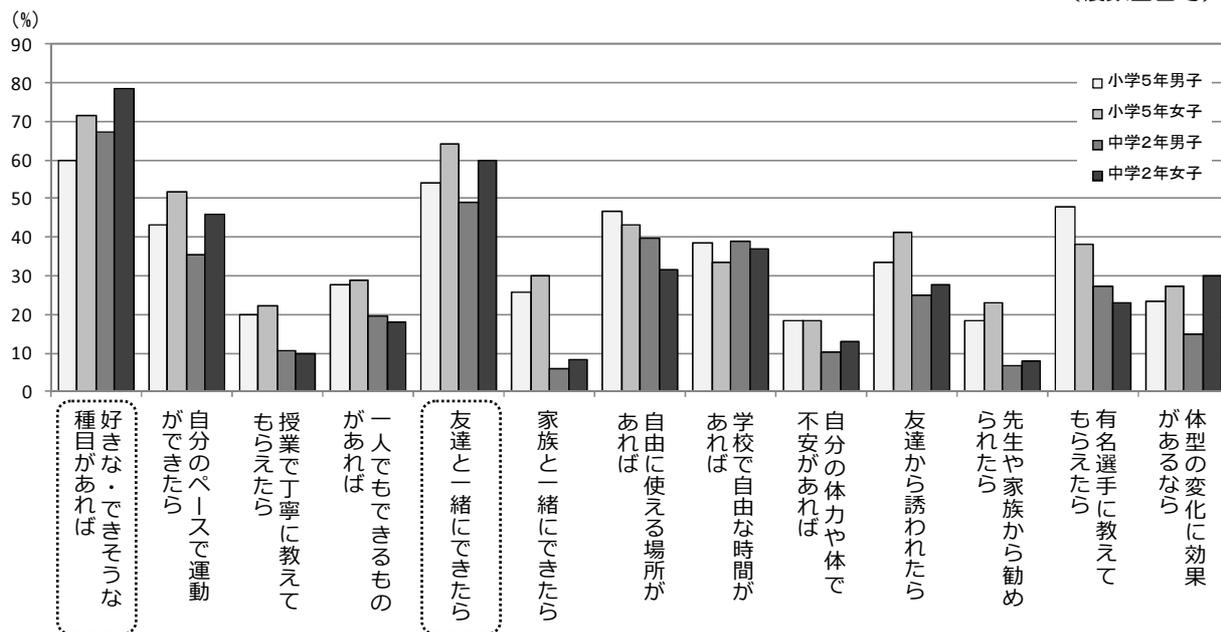
◇1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合（H25年度）

「運動やスポーツをするときは、1週間にどのくらいの時間しますか（学校の体育の授業をのぞきます）」に対し「60分未満」と回答した児童生徒の割合



◇もっと運動をするための条件（H25年度）

「今後どのようなことがあれば、今よりもっと運動やスポーツをしてみようと思いますか。」に対する回答結果（複数回答可）



全国体力・運動能力、運動習慣等調査

1週間の総運動時間が「60分未満」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校、男子・女子とも全国平均を上回っています。男子より女子、小学校より中学校で運動をしない割合が高くなっています。特に、中学校の女子は35.9%と高く、運動離れの実態が明らかになっています。

もっと運動をする条件では「好きな・できそうな種目があれば」と回答した割合が小中学校とも高く、次に「友達と一緒にできたら」となっています。このような調査結果を参考に、運動をしない・運動が苦手な児童生徒への取組を工夫していくことが大切となります。